

最優秀賞【中学校の部】

書くことで踏み出す一歩

（課題図書：キミの一步 イタリア 夢につながるうねうね道）【感想文】

竹園学園つくば市立竹園東中学校 八年 山本 彩瑛

私は、他の人とコミュニケーションをとることがあまり得意ではありません。自分から誰かに話しかける時は、緊張してしまいます。誰かに話しかけられても、相手を傷つけたり、不快な思いをさせたりしないようにと、気をつかいすぎるあまり、一言、二言しか返すことができず、会話を続けることが苦手です。

それは、担任の先生と二者面談をした時も同じでした。なかなか話さない私を見て、先生は、「話せないなら、書いてきて。」

と言ってくれ、先生と文通をすることになりました。ノートに自分の気持ちを書いていくうちに、「書くこと」は私にとって自分の気持ちをとほぐし、相手に自分の思いを伝える大切な手段になっていくことに気づきました。自分の気持ちを表現し、受け止めてもらえる場があるというだけで、私の心は楽になっていくことを実感しました。

そんな私が最近出会ったのは、佐藤まどかさんの『キミの一步』という題名のエッセイでした。

児童文学作家でもある佐藤さんは、人生の苦しい経験を物語に昇華しながら、異国の地イタリアでの生活を切り開いてきました。あとがきのメッセージからは、佐藤さんが苦しい時期を乗り越えてきたことに対する思いが切々と伝わってきました。

「大切なのは、とにかく生きのびること。このおずかしい時代を、書いて毒を吐き出しつつ何とか生きのびて、年齢を重ねてから振り返ってほしいのです。」

この言葉に、私は強く共感しました。私も実際に、しんどい思いをしていた時に、その気持ちを文章につづり、物語にしていた経験があるからです。

小学生の時、先生方への反発で、クラスの雰囲気が悪くなっていく中、私は周囲に同調することができず、黙って真面目な良い子でいることが苦しくて仕方ありませんでした。そんな時、私は、自分のことを救ってくれる人が登場する物語を書いていました。現実ではどうしようもない状況であっても、物語の中では救いを求め、助けてもらおうことができず。物語を書くことで、当時の私は、辛い毎日をするうにかやり過ごしていたのです。

今、改めて考えてみると、私にとって「書くこと」は、自分の直面する苦しい気持ちを整え、現状を変えるための力になっているという事に気が付きました。

佐藤さんは、「書くことは、心理カウンセリングを受ける代わり」だとも言っています。「書くこと」

が自分の傷をいやすことにつながっていることは、私にとっての新しい発見でした。

中学生になった今でも、小学校時代の苦しかったことは良い思い出だと思うことはできません。しかし、あの頃苦勞したことがあったからこそ、今の自分があります。私はそんな自分を大切にしながら、希望をもって次の一步を踏み出せるようになりたいです。

佐藤さんはエッセイの中で、夢や目標を持つことの大切さについてふれています。苦しい現状を乗り越えていくためには、夢を持つことが希望につながるというのです。

私は今、カウンセラーの仕事に興味があります。将来の夢はまだ、はっきりと決めていませんが、言葉で人のことを温めることができる職業に就きたいなと思っています。

私がこれから進んでいく道の先には、思い通りにならない様々な困難があると思います。それでも私は、その道が自分のなりたいたい姿につながっていると信じ、「書くこと」で自分の心と向き合いながら、目の前の小さな目標を一つひとつ達成していきたいです。